

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100116		
法人名	特定非営利活動法人 COCO森田福祉会		
事業所名	グループホームらくや		
所在地	福井市上野本町21-30		
自己評価作成日	平成25年 12 月 27 日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成26年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人間としての尊厳」を理念の第一に掲げ、性質感謝の気持ちをもつことを使命としています。入居様が暖かい雰囲気の中で安全で楽しく自分らしさを発揮して生活できるよう支援しています。食事作り、洗濯たたみ、お掃除、配膳等もみんなで作って頂いています。また、みんなで相談してはドライブ先を決めたり、外食先を決めて出かけたりしています。入居様は7みんなりピングに集まって過ごしていることが多く、笑い声や話し声が絶えません。入居様の表情をケアの評価と捉えサービスの提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業者は、福井市北部の九頭竜川にほど近い新興住宅地にあり、同法人の小規模多機能居宅介護事業所に隣接している。職員は常に利用者に対して笑顔で接するように心がけ、明るい雰囲気の中で介護にあたるように努力している。何気ない利用者の一言から、利用者の意向や持っている力を把握するように努め、利用者の言動を丁寧に観察し記録に残し、個別ケアに生かしている。また、家族の面会や受診時の付き添いの際に、介護日誌を読んでいただき利用者の日々の様子を家族に伝えていく。食事の盛り付けや掃除洗濯等の日常生活場面では、利用者の持っている力を最大限に活かす支援を行っている。父の日母の日や誕生日には、家族から利用者あての手紙を書いていただき、家族とのつながりを含め利用者中心の介護を行う取り組みを行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の人権を尊重し、人としての尊厳を守るサービスを提供し、本人と家族を支えていくためのパイプ役となるケアを目指し職員一丸となって取り組んでいます。	地域密着型サービス事業所としての法人の理念を掲げ、それを当事業所としてどのような形で実践しているか、随時職員間で話し合っている。折に触れて振り返りもしており、今後「らくや」としての理念として整理し、掲げていく予定である。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の児童・生徒の受入れ利用者が感激と充実したふれ合いを楽しむことができ、また学校駆け込み寺や通学路でもあることから子ども達からの声かけに感激する場面も見られます。	町内会に加入し、当事業所の行事に地域住民の参加を得たり、地区の福祉祭りに利用者と一緒に参加したりして交流している。地区の中学校の職場体験等の受け入れもしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会、納涼祭、クリスマス等の行事の際には、地域の7方々に声をかけ沢山の参加があります。また不要品回収には町内の方々のご協力を頂いております。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域に開かれたサービスの確保を図ることを目的として2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、サービス・活動状況等、文書にまとめ報告し取り組みについて幅広く意見を聞き、可能なものから活かしています。	同法人の小規模多機能住宅介護事業所と合同で2か月に1回運営推進会議を行っている。活動報告や行事への参加要請等を行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは電話や面談をして情報交換するようにしています。また困難事例等については包括支援センターと密に連携をとりながら進めています。	地域包括支援センターが行う勉強会に参加する、運営推進会議等で福井市の介護の状況を話してもらい、困難事例について話し合いを持つ等、協力関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。毎年研修会を実施し職員全員で理解を深めケアに取り組んでいます。身体拘束廃止マニュアルは職員がいつでも閲覧できるように設置しています。	年に1回身体拘束に関する研修を行い、理解促進に努めている。身体拘束と虐待防止のマニュアルが一本化されているので、単独のマニュアルを作成中である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修を実施しており、職員全員で理解を深め意識してその防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年研修を実施しており、職員全員で共通理解し、ケアに取り組んでいます。今後とも継続的に勉強会を開きそれらを活用できるように努めています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際、利用者や家族等と十分に話し合い、理解・納得の上で手続きをしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、何でも話して合える関係作りの構築に努めています。また、入居者・ご家族様からのご意見やご要望については運営推進会議などで家族代表より発言して頂いています。	家族の面会時に介護記録を読んでもらう等の関わりを持ち、信頼関係の構築に努めている。意見箱の設置はしてあるものの、アンケート等による意見や要望の収集は行っていない。	利用者・家族に対して定期的なアンケートを行い、意見を受けて改善等の取り組みを行い、取り組み結果を広報誌等に掲載すると、さらに事業所への理解が進む一助となると思われる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会やミーティング、又内部研修会等で職員との意見交換を行っています。また職員との個人面接では職員の思いや意見を聞く機会を設けています。	職員会議やミーティングの場において、改善提案等が積極的に出ている。また、随時話し合いを持ち、職員の意見を取り入れている。1年に1度の個人面談も行い、意見や提案を聞いて改善に向け努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を実施し、個々の実践・努力目標をたてることにより更なる向上心が持てるような職場環境作りに努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法外部研修の参加、年間計画に沿った内部研修研修や伝達研修など実施し、資質向上を目指しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の連絡協議会に毎回参加し交流を深めています。事業所は地域医療連携のメンバーとして参加し交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する以前に自宅訪問や来所、電話で話しをする機会を持ち、不安なく利用していただけるように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問・電話・来所を通じ、家族の思いを傾聴し、不安等がないかその都度伺っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントやカンファレンスを通して、本人・家族の要望や思いを聴きながら、病歴等も考え、必要なサービスを見極めるようにしています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意なことや役割として出来る事を探り、職員が本人に教えていただきながら作業を共にできるような関係を築くようにしています。配膳・調理・下膳、掃除等々それぞれに応じて充実感がえられるように提供・支援しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回、面会に来て頂けるよう考慮しています。また、家族参加の行事を行い、一緒に過ごせる時間を提供しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブで出かける機会を作ることや友人・親戚との電話や手紙の郵送をしています。	利用者との話し合いの中から、自宅にドライブすることもある。また、父の日母の日等には、家族から手紙をもらったり、年賀状を職員と一緒に作成したりして、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴や個々の特徴を職員が把握し、介入しています。また、孤立しないよう、一人一人と職員が関わるような環境を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても電話や次の施設等に訪問を行い、近況を伺うようにしています。また、家族が相談に来所されることもあります。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1度は利用者様とじっくりお話をさせて頂く時間をとり、日頃の思いや気持ちを知り個別ケアに活かすようにしている。	月に1回担当職員が利用者と話し合う時間を設け、希望や意向の把握を行い、記録に残している。また、その都度出た意向は、職員間で話し合ったり、記録を読んだりすることで共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人のこれまでの暮らしの把握に努めています。また日々の会話や面会時の家族との会話から見つけることもあり、経過録に残しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけや握手等で心身状態の把握を行っています。また、作業やレクリエーションで現状の力が把握できるよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一回職員との評価を行うことで、課題を見つけることができ、現場の意見も反映できています。家族とも担当者会議前と会議時に話し合うようにしています。	ケアマネジャーを中心に介護計画を作成するが、日々の介護記録をもとに利用者の目標等について担当職員と話し合い、問題点等を抽出したり優先順位を決めたりして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の見直しを行い、個別の記録や実践に反映できるようにしています。そのため、情報共有や計画書見直しにも活用できています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を連れて自宅訪問を行う、本人や家族から得た情報を基に外出を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加を行うことや地域の方の訪問を受け入れることで、地域資源との協働を行えています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との書面での情報交換を行っています。また、地域の医療機関との連携を図っており、往診や電話相談等、指示や対応を受けられる体制をとっています。	入所前からのかかりつけ医の受診を続けることも、当事業所に定期的に往診を依頼している医師を受診することも可能である。必要があれば、職員が家族と利用者とともに受診に同席する場合もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	相談しやすい環境であり、看護職と介護職の協力や情報交換が行えています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に面会に伺い、看護師や医師との情報交換を行うようにしています。退院時のカンファレンスの参加や退院後の情報提供もしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議時に家族と終末期についての相談を行うようにしています。	入所するときに、口頭で当事業所のできる範囲を説明している。また、状態が変わった時には随時家族と話し合いの場を設けているが、重度化・終末期におけるマニュアルは作成していない。	重度化、終末期の支援方法を職員間で話し合いながらマニュアルを作成することが望まれる。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故の発生・緊急時の対応に関するマニュアルの作成や対応についての訓練も行っていきます。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っており、その際に地震想定訓練も実施しています。	年2回の避難訓練を行い、また地震を想定した避難も行っている。災害等に備え、今年度からストーブや水等の備えを始めた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった言葉掛けや対応を心掛けています。プライバシーに関しても毎年研修会を行って、振り返りをしています。	利用者の表情を観察しながら一人ひとりにあった言葉掛けを行っている。利用者の気持ちを受け止め、肯定しながら会話を進めている。排泄介助時の言葉がけも、周囲を配慮しながら行っていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや希望が表せるようにコミュニケーションを大事にし必要があれば、家族と相談し自己決定できるように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課の流れはあるものの、本人の気持ちやペースを尊重して、本人の臨む過ごし方ができるように対応しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望を聞き、理美容に応じています。シャンプーや化粧品など本人にとっておしゃれのこだわり等にも配慮しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、職員と一緒に食事の下ごしらえ、配膳、食器洗いや後始末等できることに参加して頂いています。「あれを作ろう」恭は、天気がいい。手作りお弁当を持って出かけよう」等入居者様の意見を大切にしています。	ノロウイルスが心配される時期のため、下ごしらえ等の調理は今は控えているが、能力に応じて利用者がご飯をよそったりしている。メニューを利用者の一言で変更するなど、柔軟に対応している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや摂取状況、嚥下能力をみて食事形態を工夫して安全に食事や水分が摂れるよう配慮しています。昼食前には毎日嚥下体操を実施しています。また食べたいものを作ったりで手作り弁当をもってピクニックに出かけたりしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて口腔ケアを実施しています。ご本人の出来るところは出来る限り行って頂、出来ない部分は援助しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを掌握することで気持ちよく自然に排泄が出来るように日々取り組んでいます	排泄記録を詳細に記載し、一人ひとりにあった介助の方法や時間を把握している。トイレで排泄することを原則とし、オムツ外しにも取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質を多く含んだ食事を毎食調理し、レク・体操・散歩等身体を動かすように働き掛けをしています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者やご家族の意向に出来るだけ寄り添い、曜日や時間帯、回数は決めているものの、その日の体調や気分もあるので無理強いです臨機応変に対応しています。	週に2回午後から入浴を行う。入浴を拒否する場合、時間を置いたり、異なる職員が改めて声かけする等の工夫を行う。希望により、夫婦2人で入浴することもある。状態が変わった場合、小規模多機能居宅介護事業所のリフト浴も使用できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝・就寝・起床時間は、個人の生活リズムに応じて支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	直近の薬剤情報をファイリングし、情報を共有しています。また薬剤調整中の時は、観察・記録をし、受診時主治医への情報提供を行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等から、生活史、趣味など情報を集め、一人ひとりにあった支援が出来るように努めています。出来る力を見つけ、利用者の役割やはり合い、楽しみが持てるように努めています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりに応じて散歩やドライブ等同行しています。好天気の日にはみんなで手作り弁当をもってピクニックに出かけたり、また外に出て日光浴を楽しみながら地域の方々の声掛けや挨拶を交わせる機会を持てるようにしています。	天気の良い日は、施設の前で日光浴をしたり散歩をしたりする。地域や学校のマラソンや行事等がある時は、沿道で応援したり下校時の児童を見送ることもある。天候を見ながら、ドライブ等外出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族と話し合い、個別に対応しています。買い物に出かける時には金額を確認した上で所持して頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を家族や知人に送るよう支援しています。利用については入居者及びご家族も希望される方には、利用して頂いています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはソファを置き利用者がくつろぎながらテレビ観賞したり、おしゃべりしたりできるようになっています。	共有の空間は、明るく居心地の良い雰囲気である。大型テレビが設置されているが、利用者同士の交流を促すため、あまりつけていない。季節感を感じられる絵や、利用者が作成した手芸品が飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	活動の様子を撮った写真やクラブ活動での作品など季節毎にまとめ掲示しています。また、一人ひとりのアルバム帳があり思い出の写真をファイリングして頂き、見ては楽しんでおられます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は、使い慣れたものを使用して頂、身の回りの物には好みのものや、思い出の品を飾ったりして居心地良く過ごして頂けるよう配慮しています。ご家族の写真、手作りのものなどおいて楽しんでおられます。	家具は使い慣れたものを持ち込み、自分の作った作品が飾り、利用者一人ひとりの個性が感じられた。日常の様子を写真に撮り、100枚以上のアルバムにして居室におかれています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーとなっており安全面に配慮しています。一人ひとりの身体機能に合わせ見守り、声かけしながら安全と自立した生活が送れるよう工夫しています。		